

総合教育会議資料

I 令和5年度 教育委員会重点事業に関わる評価と反省

重点一 松川町を愛する子どもを育む

◎学校づくりはまちづくり

1 自己実現の可能性を探る ～しごと未来フェア～

地域コーディネーターが中心になって11月22日に開催した。「自分だけの空を描く～可能性は無限大～」をテーマに7月より隔週土曜日に、12名の生徒と地域アドバイザー5名で実行委員会を組織して、自分たちの手で作り上げてきた。21事業所の方に協力していただき、ブースごとに発表を聞いたり、質問したり、体験したりして、働くことの意義や保都としての生き方について学ぶよい機会になった。

課題：①子ども達の思いや考えを大事にして進めているため、準備に時間がかかり、名子地域COと地域アドバイザーの負担が大きい。

②隔週土曜日の実行委員会に中学校職員が勤務時間の関係で関わっていないので、学年行事であるものの、学校の主体性が乏しくなってしまう。

2 地域から学ぶ機会を創出

①松川学

小学校3年生「わたしたちのまちみんなのまち」「農家の仕事」4年生「郷土と伝統文化と先人たち」5年生「暮らしを支える食糧生産」6年「満蒙開拓記念館」中学校1年生「松川を知る」（調べる、聴く、見知る松川町）2年生「松川で出会う」（職場体験・しごと未来フェア）3年「松川に貢献する」＝（中学生と語る会）を小中連携して松川町について学ぶ機会を創出してきた。こうした学びを通して松川町を知り、松川の人と出会い、松川町への愛着をもつ機会となった。

課題：社会科や総合的な学習の時間の中に探求的な学びとして位置づけられるべきで、自ら疑問を持ち、主体的な追究につなげることが大切であるが、教師の力量に委ねられるところもあって、探求的な学びにつながらず、イベントに終わってしまう。

②キャリア教育の推進【別紙キャリア教育委員会資料】

・小中連携推進委員会が中心となって、総合的な学習の時間を活用した松川町ならではの「キャリア教育・学習系統性」を作成することができた。令和6年度からに活用しながら修正していく予定。

③「ニコボラ」

・名子地域COの尽力により、12月時点で1年生7名、2年生8名（1名は80回以上）3年生11名が5回以上のニコボラに参加できている。2学期の実績をみても参加生徒は63名、のべ323名にのぼっている。

④「教職員研修会」の実施

・新任の先生方に8月21日午前中に駆け足ではあったが、町内めぐりを実施し、松川町を知ってもらうきっかけになった。継続していくことが大切。

3 町ぐるみで子どもを育む仕組みを整備

保育園・小中学校運営協議会を3回開催してきた。①町ぐるみで子どもを育むために何ができるか ②不登校を支援するために地域でできることは何か ③学校運営協議会のあり方はどうあったよいかをテーマに協議を深めてきた。また、教育懇談会では、①不登校を考える ②学校のあり方考える をテーマに広く町民の意見を取り入れる場を設けてきた。また、月1回学校運営協議会委員で「しゃべりまい会」を組織して、協議会の内容や課題、教育に関する情報を共有したり、協議したりして地域でできることを模索してきた。

そうした中で、学校運営協議会委員を中心に地域を巻き込んだ活動が展開されてきた。上片桐地区では、北小学校で地域の方々と「そばづくり」を行ってきた畑を、アレルギーの関係でそばづくりができなかったことから「サツマイモ栽培」に切り替え、1000本に及ぶ苗を植え、サツマイモづくりに保育園・学校・NPO法人 Hug 等と連携して取り組んできて、秋にはたくさんのサツマイモを収穫したり、焼き芋大会を実施したりして区会・育成会・PTA・ボランティアが一体となって取り組む仕組みを組織することができた。

中央小学校でも運営協議会委員が中心となって、中央小学校校門横の花壇を地域住民と障がい児学級の子も達、社会福祉協議会、松川高校ボランティア部等と連携して「にじいろ花壇」と命名して、草取り、苗植え、球根植え等に取り組んで、マリーゴールドやペチュニア、パンジー・ビオラ等で学校環境に潤いを与えてきた。

課題：①協議の仕方が、基調提案・グループワークとワンパターンとなってしまう、協議題はいくつもあるにもかかわらず、マンネリ感がある。

②協議会を立ち上げて、2年でメンバーが大きく変わり、新たなメンバーを加えたが、仕事の都合等もあって、継続して協議していくことが難しい。

③学校運営協議会と地域学校協働本部の構築に向けて準備が整いつつある。

重点 二 子どもを主人公に

◎子ども達自身が考え、判断することで育む自立心

1 子ども達の声を活かした事業の実現

・部活動の地域移行に関するアンケートを中学生（1学期・2学期）に実施し、小学生にも地域移行 CO が中心になって作成中。どれだけ声を事業に活かせるかは未知数であるが、今後もさまざまな場面や事業に子ども達の声を活かす姿勢を大事にしたい。

2 子ども達と語り合う機会の設定

・子ども達と語り合う機会の創出（「中学3年生と松川町の未来を考えよう」）
7つのカテゴリー（①農業 ②およりの森 ③あらい商店街 ④企業とコラボ ⑤防災・減災 ⑥資料館 ⑦ツツザキヤマジノギク）に分かれて、地域住民と語り合うことができた。中学生が町民と「語り合って」「楽しむ」ことはできた。プレゼン能力、発表力の差があったり、語り合うまで行かなかったりする面が、見られた。学校と教委と地域 CO の打ち合わせを密にする必要があった。

◎子ども達の健やかな成長のための相談・支援体制の充実

1 子ども達の安定的な発達のための支援体制の構築

・町費スクールカウンセラーが学校に常駐し、小6・中1の全員面談を実施し、早い段階から寄り添うことができた。
・課題は町費スクールカウンセラーの負担が大きく、超過勤務となっているので、見直しが必要となっている。

2 妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援体制の構築

- ・子育て支援係が保健福祉課と連携して、子育て相談や子育て支援センター事業を推進してきた、成果が表れている。
- ・課題は、課をまたぐ事業も多く、連携がとりにくい面や町民への周知が不十分な面がある。「子ども家庭センター」に期待したい。

重点三 主体的な学びの実現

◎教師主導の授業から子ども主体の授業への転換

1 一人ひとりに応じた学びの実現

○GIGA スクールの推進

- ・R5 全国学力学習状況調査で「前年度までの授業で ICT 機器をほぼ毎日使用」の割合が、R4 年度の小学校では約 4 倍（12% ➡ 46%）、中学校では約 10 倍（5% ➡ 50%）に伸びていて、長野県平均の約 2 倍、全国平均の 1.6 倍となっている。ICT 支援員の尽力により、ようやく ICT 活用が定着してきている。職員の活用能力も徐々に伸びてきている。
- ・課題：①中学校のタブレットの持ち帰りは定着しているが、小学生はまだ定着していない。持ち帰る家庭学習が定着していない。
 - ◎情報モラル教育の面でも一部の児童生徒で不適切な使用の仕方がみられる。
 - ◎職員の ICT 活用能力も大きく差があり、年 3 回の職員のスキル調査を実施して意識改革と ICT 支援員による集中的な指導の資料としている。
 - ◎ネット環境が

○個別最適な学びの実現

- ・ベテラン教員ほど、教師主導の授業スタイルからの脱却ができず、一人ひとりの探求的な学びにつながっていかない面がある。教職員の一層の研修が必要。

2 子ども達の意欲を喚起する授業の構築

- ・子ども達がワクワクするような教材との出会いを実現するような教材研究が不足している。働き方改革の名の下に、教師の根幹が揺らいでいる。その改善のための「学びの旅プログラム」ではあるが、教科学習とのつながりも計画していく必要がある。

◎挑戦する子の育成・基礎学力の伸長を図る

1 チャレンジスクールの充実

- ・夏休み中のチャレンジスクールを中央小（21名）・北小（16名）で実施することができた。夏休み中の居場所の確保と基礎学力の向上には一定の効果があった。
- ・昨年度まで実施していた「マナビバオンライン」の参加者が少なかったため、今年度は、漢字検定対策講座（55名）と算数検定対策講座（18名）を実施。年齢制限をかけなかったため、低学年が多く、やや落ち着きにかける面があったが、漢字検定・算数検定とも受検者増につながり、「伸びる子を伸ばす」機会となった。

2 分かる楽しみ「てらこや松中」「てらこや小学校」

- ・中学校の「てらこや松中」は、前期 2 年生 32 名、3 年生 23 名が参加。後期は 2 年生 24 名、3 年生 18 名が参加。6 名の地域講師による指導が定着している。
- ・「てらこや小学校」は今年度から北小でも実施。16 名 会場を学校から中央公民館に移動して、家庭学習と基礎ドリルの実施を通して、基礎学力の定着をめざした。

重点四 多様な学びの実現

◎一人も見捨てることなく子ども達の居場所を確保します。

1 不登校児童生徒の学校以外の多様な学びの場を整備

・協働や教育相談室を通して、多様な学びの場を提供します。【不登校の現状については別紙】

(1) NPO 法人との連携

◎NPO 法人 Hug との連携

HUG の利用状況 4月52人 5月69人 6月70人 7月48人 8月15人
9月69人 10月78人 11月67人 12月67人 1月81人
小学生6名 中学生3名 過年度生1名 【高森町1名 松本市1名】

- ・不登校児童生徒の状況について生徒指導専門員を配置して連携を密にしている。Hug 保護者会に参加し、保護者の要望にも応えられるようになってきた。
- ・昨年度中3生が多く、卒業とともに大幅に登録児童が減ってきていた。このところ不登校児童生徒の増加とともに

◎NPO 法人はなぶさ学園・ALL 南信州親の会との連携

- ・特別支援学級児童との交流➡ ヤギプロジェクトの実施（9月21日ヤギ引き渡し）・はなぶさ学級の誕生
- ・はなぶさ学園親の会・交流会（7月20日実施）
- ・教育懇談会ではなぶさ学園代表木下英幸氏の講演実施
- ・やぎクリスマスイベント（12月16日実施）100人以上参加
- ・はなぶさ学園からの文具寄贈（1月31日実施）

(2) 教育相談室による支援（不登校児童生徒の利用を促す）

- ①不登校児童生徒の個別支援（小4・中3）
- ②不登校児童生徒への対応チャート「支援の流れ」を作成
- ③教育相談室チラシを作成し、家庭数配布
- ④不登校親の会への参加
- ⑤過年度生への個別支援（高2相当）

(3) 生徒指導専門員の配置（2学期より）

- ・県費による中学校中間教室担当教員が午前中のみの勤務のため、午後登校やアウトリーチができないことから、町費専門員が家庭訪問したり、午後登校の生徒のサポートを行ったりしてきている。

課題：①不登校は問題行動という位置づけはなくなったが、対応しなければならない課題であるという認識で、できる限りのサポートを行っているが、不登校児童生徒の数がなかなか減らない。

②令和6年度から長野県のフリースクール認証制度【フリースクールの運営費（スタッフ経費等の県費負担）】がスタートするが、町費雇用のスタッフ経費を負担できるか不透明である。

③学校内での不登校児童生徒への対応が遅く、早い段階でのサポートができていない。

④教育相談室主催の「不登校親の会」は参加者が固定化して、他の保護者へつながっていない。

⑤過年度生（高校中退者・中学校卒業後進路未定者）の支援が教育相談室での1名に留まっていて、町内の過年度生の把握が的確にできていない。また、把握している過年度生に対する支援も保健福祉課との連携が十分とれていないこともあり、誰がどのように関わっていくか、対策が明確になっていない。

◎特別支援教育の一層の充実を図ります。

1 町費特別支援教育コーディネーターの配置

保育園と小学校との連携を深め、早い段階での適切な支援を行えるよう体制を整えてきた。しかし、今まで町内の保育園・幼稚園に通う児童については、見学・相談を繰り返し、支援に繋げているが、飯田市内の療育施設（こども発達センターひまわり）に通う園児の対応が遅れた。保健福祉課との連携が必要であった。

2 児童生徒のネットワークの構築

構想や見通し、支援体制の構築が不十分で実施できなかった。しかし、必要性はあるので、今後こども家庭センターとの連携の中で構築していきたい。

◎世界や松川町内以外とつながることで自分の世界を広げます

1 世界とつながる（中国交流事業）

3回に渡る中国深圳市明德実験学校との交流や「中国教育明德フォーラム」への参加を通して、中国の教育事情に触れ、その良さ（特に英語教育・ICT教育等）を学ぶとともに、松川町の子ども達が中国の子ども達と積極的に関わることでできるよう、コミュニケーション能力の育成や英語教育の推進が、グローバルな人材育成に不可欠であることを理解することができた。

2 蓮田市とつながる(松川町・蓮田市交流事業)

町内小学校6年生は、昨年度から蓮田市の小学生6年生とオンラインを活用して交流事業を通してお互いの良さを学んだ後、7月27日・28日と蓮田市の小学生が松川町を訪れ、一層交流を深めることができた。また、蓮田市の子供達だけでなく、松川町の子供達も「まつかわ観光まちづくりセンター」に委託して、体験的な学習に取り組むことができた。また、単なる交流だけではなく、リーダー育成事業として、「こどもサミット」を実施して「地域・学校・クラス仲よし大作戦」と銘打って自分たちでできることを話し合い、各学校に持ち帰って自校の活動に活かすことができた。

3 松川高校とつながる

松川高校ボランティア部の活動や生徒会による苗植えの活動に加え、名子地域コーディネーターが企画し、松川高校生によるボランティア活動を推奨し、児童館での小学生の活動支援（学習や遊び）を行うことができた。長期休業中は、児童館職員が不足しがちであり、松川高校生・児童館職員・子ども達それぞれにとってメリットが大きかった。

II その他教育委員会事務局として取り組んできたこと

1 児童館の運営

（名子児童館：通常時90名・長期休み54名 上片桐児童館：通常時41名・長期休み4名）

長年勤務してきた名子児童館主任が9月、上片桐児童館主任が2月に退職となった。退職の主な理由が、児童館職員間のトラブルによるものであり、対応が難しかった。新たな主任を配置して対応してきているが、新たに雇用しても新規採用者が長続きせず、次々に採用するしか手立てがない。今後、民間委託も含めて児童館運営に関して検討していく必要がある。児童館のニーズは引き続き高い。児童館ゲートウォッチャー（入退館システム）の導入により、入退館の状況確認やメールでの連絡等がスムーズにできるようになり、保護者の安心につながっている。

2 放課後子ども教室の運営

中央小：1・2年のみ56名 北小：低学年47名 ・高学年（月1回）24名

今年度から「あそびの楽校まつかわ」のプログラムを年1回取り入れ、レクリエーションゲーム等を企画して、楽しく体験することができた。

3 中学校部活動の地域移行について

1月26日第1回松川中学校部活動地域移行協議会を開催し、松川町体育協会・少年少女スポーツ連盟・保護者・議員・教育委員等に集ってもらい、とりあえずスタートすることができた。松川町の方針として、令和7年度末までを目途に休日部活動の地域移行を推進し、松川町内で推進できないスポーツ・文化活動については、令和8年度末までに北部5町村で移行を推進していく計画になっている。松川町は、中学校部活動指導員を多数配置してきたことから、ある程度受け入れについてはいくつかの団体で進めていけそうである。国の令和6年度実証事業にも手を挙げて、国・県の支援の下、推進していく計画をしている。

Ⅲ 令和5年度 各校の運営の反省と課題

一 松川中央小学校

1 こどもの実態

- ・以前と比較すると、授業中に立ち歩いている児童もほとんどなく落ち着いてきた。
- ・一人を大勢で冷やかすなど、いじめにつながる様子はなくなった。
- ・コロナが2類から5類に変わり、休み時間など活発に遊ぶ子が増えてきた。

2 令和5年度学校運営の重点について（以下の項目以外）

(1) 重点(取り組んできたこと)

- 本年度の重点目標
「自分で考え判断して動ける子」
- ・自分の頭で考えることを大事にしてきた。

(2) 反省と課題

- ・児童会では、子どもたちに考えさせることが多くなった。
- 中庭では雪投げ遊びをしないなど禁止事項があり、もっと子ども達に考えさせたい。

3 学力向上について

(1) 学校としてつきたい力

- 自分から進んで学習に取り組む主体性
- 問題を見つけ自分の力で解決していく探究力

(2) 学力の実態

- NRT, CRTともに数値は低い。
- 担任は基礎学力（主に漢字、計算等）の習熟を行っているが、問題を読む力、数量関係を把握する力など十分ついていない。

(3) 学力向上の取り組み状況（授業改善の状況）

国語、算数では授業での理解に力を入れているが、学力差が大きく、上位の子どもたちを伸ばすことがなかなかできていない。

社会、理科はタブレットを用いて調べ学習が行われ、子どもも興味をもって学習に取り組むことができてきた。

4 不登校の現状と学校としての対策

(1) 不登校の実情 【別紙参照】

(2) 対策（取り組みの状況）と課題

個別に対応をしている。例えば、5，6年生はリモートで学習を行っており、子どももよく参加している。

低学年は、Hugに通う子もいる。教頭が関係者会議に出て、状況を共有している。

登校渋りを担任はキャッチしているが、学校全体で共有するスピードが遅い。

5 GIGAスクール構想の実現に向けた取り組みについて

(1) 整備状況と児童生徒の活用状況

タブレットを使って調べたり、まとめたりすることは高学年を中心にできるようになってきた。Jamboardを使って友だちの考えを知ることはできるが、それをもとに意見を交流したり練り上げたりすることがまだできていない。

(2) 次年度以降の課題

個人追究では使えているので、協働学習の場で話し合いのツールとして活用できるようにしたい。例えば、学習問題があって、自分の考えを補強する資料を提示したり、スプレッドシートからグラフを用いて予測したりする活用の仕方ができるとよい。

6 特別支援教育の現状と課題

(1) 児童生徒の実態

今年度は自・情障学級が5学級（37名）あったが来年度は4学級（30名）に戻り、知障2学級（R511名 R6 11名）を合わせて全部で6学級に戻る。就学相談委員会で、通常学級判定が多かったことも一因である。本来の自・情障学級に所属する児童になってきた。

(2) 課題

入学して間もない頃、環境の変化のため、落ち着いて生活できない児童がいるが、自・情障学級に入る範疇にない子に対して、どのように対応すればいいか課題が残る。

7 教職員の働き方改革の現状と課題

平日時間外在校等時間（単位：時間 小数点以下切り捨て）									
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
県平均	4.8	4.4	4.6	3.4	1.7	4.0	4.0	3.7	3.1
松川中央小	4.5	4.5	4.8	3.7	1.7	4.4	5.0	2.9	2.8

4.5時間以上は、2ヶ月だったが、県平均より少ない月は、3ヶ月しかなかった。

6月は音楽会、7月は臨海学習、9月は運動会、10月は修学旅行・社会見学などの準備があり、遅くなる傾向がある。音楽や運動会は易しい曲、運動にし、旅行や見学はできるだけ早めにとりかかるようにしていく。

8 町費職員の配置についての活用状況と課題

算数少数数指導職員は、今年度空き教室が1つしかなく、3年生を対象にしたが、来年度については空き教室が2つになるため、3，4年に配置する予定。ただし、算数指導の研修会に参加するなど、スキルアップをしたい。

9 学校環境についての課題

様々な改善をしていただき、ありがたい。体育館のトイレについては改修を要望し続けたい。

10 教育行政や教育委員会への要望

来年度は、町長さんや議員さんの話を聞く時間をとりたい。

11 地域との連携(松川学)について

R5年度は、松川町内のいろいろなところに言ったり、地域の人から話を来たりすることができた。来年度は、ぜひコシブ精密の見学を行いたい。

また、年度の後半に体験・見学が多かったでの、1学期中に行い、そこから総合的な学習の時間に発展させたい。

12 世界や他地域とのつながりについて

5年生の蓮田市との交流が復活したので、大事にしていきたい。

コスタリカや中国との交流が一部になっているので、もう少し多くの児童が関わられるようにしたい。

二 松川北小学校

1 こどもの実態

全校100名程度の小規模校であり、縦割り活動を中心に全校がとても仲の良い学校である。6年生が中心となる児童会においても、お昼の放送・掲示物や展示等を通して、小さな活動を積み重ねている。子ども同士の小さなトラブル(嫌なことを言われた、物を隠された…)はあるものの大きないじめなど、生徒指導上の大きな問題もなく、落ち着いている。

学習も落ち着いた環境の中、協働の学びに向けて、友達の意見と関わらせて学んでいる。特別支援学級在籍のお子さんも、原級とのかかわりを大事にすると共に、自立活動をすすめ、子どもの特性に合わせた学習に結び付けている。

地域との関わりでも、ボランティアさん(読み聞かせ、書道、米作り、リンゴ栽培、ミシン・裁縫、音楽のお琴、クラブ等)が大勢入り、子どもたちを温かく見守ってくださっています。

2 令和5年度学校運営の重点について (以下の項目以外)

(1) 重点(取り組んできたこと)

① 学びづくり

子どもたちが学びたい学習問題を据え、友との対話を通して粘り強く学ぶことで、自分たちの学びに自信をもつことのできる授業を目指してきた。

具体的には、学習問題をクエスチョン型にして、子どもが「どうして?なぜ?」と興味をもって主体的に取り組む、友達と協力して解決する授業づくり。

② 関係づくり

縦割り活動や連学年・異学年での取り組みや交流などを体験することで、幅広い豊かな人間関係の構築を目指してきた。また、地域との連携を大切にしてきた。

具体的には、全体を引っ張るリーダーと状況を理解して役割や持ち味を生かすフォロワーの関係性を大切にし、お互いの信頼をつくったり、活動をスムーズに行ったりできるようにした。

(2) 反省と課題

① 学びづくり : 多くの学級でクエスチョン型の授業を行い、子どもたちが「なぜ、どうして」を模索し、自分たちの力で解決する授業が展開できるようになってきた。まだまだ、友達の意見から自分の見方・考え方を変容できる授業には至っていないこともあるが、積み重ねが大切なので、この取り組みを続けていきたい。また、個別最適な学びも進めていかなければならないが、まずは協働の学びの質を高めることを教育課題としていく。

② 関係づくり : 全校縦割りの仲よし班での遊びの時間では、5年生にリーダーとなってもらうことで、余裕のある6年生がすばらしいフォロワーの姿を見せてくれた。この6年を支えたり協力したりするフォロワーとしての姿が全校に広がりつつある。縦割り活動の上下の関係の中では、上級生が下級生の面倒をみる素晴らしい姿があるが、学級内でも様々な学習や活動においてリーダーとフォロワーの関係は活かせる。職員や児童にこの良さを広め、豊かな人間関係を育てていきたい。

今年度は、5・6年が中心で、1～4年の関係づくりが育たなかった。来年度は、連学年、ブロック(低・高学年)で、小さなリーダーとフォロワーの関係を育てたい。

3 学力向上について

(1) 学校としてつきたい力

目指す姿は「自ら学ぶ子ども」。そのために主体的に取り組み、一人では解決できない課題を仲間と協働して解決する力（主体的で協働的な学び）。単に知識を覚えるのではなく、覚えた知識をいかに使うか、調べたことをいかに組み合わせるかに重点を置きたい。そのためには、友の考えに耳を傾け、自分の考えを伝わるように表現していく力が必要である。

(2) 学力の実態

6学年の全国学習学力状況調査では、全国や長野県と比較しても全体的には良い状況にある。しかし、細かく分析してみると、「自分の考えをまとめて書く」ことに課題が見られる。正答率が高いのは「知識・技能」であり、「思考力・判断力・表現力」が比して低いことが分かった。国語だけでなく、算数においても「わけを書く」という問いで、正答率が低かった。

(3) 学力向上の取り組み状況（授業改善の状況）

- ICTを活用し、全ての児童が自分の考えを伝える場を作りだした。
- 学習問題をクエスチョン型にすることで、子どもの「なぜ？どうして？」について表現しやすい環境を整えた。
- 黒板や教科書をノートに写すのがゴールではなく、そこで理解したことを自分の言葉で表現できるように促している。（家庭学習の主体性が生きてきている）
具体例 ①友達の発見した2種のやり方を参考に、自分にとってより分かりやすい解き方を見つける。
②問題を解く中で「おかしい（なんか変）！」に気づいて既習したことをもとに新しいやり方を見つける。
③黒板を写しながら、自分の言葉で理解したことを書き込んでいる。 など

4 不登校の現状と学校としての対策

(1) 不登校の実情【別紙】

(2) 対策（取り組みの状況）と課題

- ・学年での楽しそうな行事等を伝えながら、登校を促す。
- ・保護者もあの手この手で登校を促すが、学習や友達との関わりに本人が興味なく、無理して登校させる気持ちはない。保護者の悩みに学校や地域が寄り添う必要がある。
- ・●●さんはプログラミングが得意なので、登校時にはタブレットを使う時間を多くとる。
- ・●●さんは、社会とのつながりが途切れないように「Hug」の見学を進めている。ただ、「やりたくないことはやらない、やりたいことだけをしたい」という個人的要因が強いので、学習中心の場所だと難しい。

5 GIGA スクール構想の実現に向けた取り組みについて

(1) 整備状況と児童生徒の活用状況

- ・一人一台のタブレットで学習したことや感じたことを共有するなど、有効利用している。
- ・スマイルネクストの中にあるドリル等も使い、学力の定着を図っている。
- ・電子黒板でデジタル教科書を利用している。
- ・苦手な職員もいるが、毎月1回40分程度のICT研修を行っている。

(2) 次年度以降の課題

- ・タブレットのつながり具合が悪い。先生方はタブレットが使える場合と使えない場合の2通りの授業準備をしておき、タブレットを使うことにストレスを感じている。時間外在校時間が増えている原因にもなっている。
- ・基本は無線である。全校児童が使っても100台ほどのwi-fi環境。不安定なことが問題。順番でつなげる。学級が重ならないようにするというのは、タブレットが使える環境とは言えない。
- ・全面的な見直しが必要である。

6 特別支援教育の現状と課題

(1) 児童生徒の実態

- ・あおぞら（知障）学級 2名 5年:1名 2年:1名
 - ・おひさま（自情障）学級 7名 6年:2名 5年:2名 4年:1名 2年:1名 1年:1名
- それぞれ特性のあるお子さんなので、個別の対応が必要。町の支援員さんのおかげで、安定した生活ができています。

小集団での活動も大切にするために、校外学習や自立活動を仕組んでいる。両学級が一緒にできる活動も取り入れ、学級内の人間関係の構築を図っている。

(2) 課題

- ①R6年度末に、あおぞら（知障）学級が減少する可能性あり。1名卒業、1名は飯田養護学校へ転出。飯田養護学校への転校は延期される可能性もあるが、ひなたさんの学びとしては飯田養護学校の方がよいと思われる。代わりに小林たいきさんが飯田養護学校から転入してくる可能性がある。来年度は、不安定学級ということで、講師を当てる。
- ②知障学級の生活単元をつながりのあるものにしたい。栽培活動から販売活動につなげ、その収益で校外学習のお小遣い等とする。自分が頑張った分、喜びが増えることを経験させたい。しかし、人数が少なく、畑の作業なども難しい。

7 教職員の働き方改革の現状と課題

平日時間外在校等時間（単位：時間 <small>小数点以下切り捨て</small> ）									
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
県平均	48	44	46	34	17	40	40	37	31
松川北小	55	43	50	43	13	38	43	41	30

少人数の職員集団で、学年一人で教科指導から学年行事等を行う。どうしても時間外在校時間が増えてしまう。

一人ひとりが本校の実情を理解してくれているので、授業日に年休を取る職員も少なく（長期休業にとっている）、ありがたい。一方で研修に出かける職員も少なく、最新の教育技術を勉強する機会もない。

声を掛け合い協力する輪を大切に、孤独「感」や負担「感」を無くす配慮をし、休まれる職員が出ないようにしている。

R6年度は、水曜日を5時間授業として、週当たりの授業時数を1コマ減らし、教材研究等の時間に充てられるようにする。

8 町費職員の配置についての活用状況と課題

- ・教育支援員さんを3名配置いただき、大変ありがたい。支援員1名は特別支援学級（自情障）の男子1名を中心に、その児童と一緒に行動してしまう数名に対し、支援いただいている。他の1名は、2年生に不安定なお子さんや配慮を要するお子さんがおり、それらの児童と一緒に学習することで、かなり安定するようになってきた。別の1名は、1年生の特別支援学級在籍の子につきながら、1年生全体の学習指導に入っている。2学期からは、1年生の学習習慣も落ち着いてきたので、校内にいる配慮の必要なお子さんについて多学年にわたり支援いただいている。
- ・教育支援員さんと教頭・町特Coとで、週1回（水曜日午後）打ち合わせを行い、子どもの特性や支援の入り方について情報交換をしている。これによって、児童の内面に寄り添って、状況を分析しながら対応することができている。
- ・事務補助員（週3日午前中）には、手が足りないところで活躍いただいている。昨年度課題であった、給食調理員の代替にも入っていただけになった。校内に代替者がいると施設面でも働き方が分かり、急な対応もできる。少しずつ仕事を覚えて、本格的な代替に対応していきたい。
- ・図書館司書は、行事や季節を感じられる本を取りそろえ、廊下に展示するなど、積極的に本の

楽しい世界を子どもたちに伝えようと努力してくれている。また、ボランティアさんとも連携をとり、毎週火曜日の朝の時間に読み聞かせを実施している。

- ・町費栄養士は、5月末より代替職員となったが、町の方で4月から配置いただいているので、引継ぎがスムーズでありがたかった。県においても指導的立場にあるので、この期間に本校の給食について、さらに安心・安全な給食室運営を作り上げてほしい。
- ・用務員による草刈りはありがたい。校地が広く、たくさんの草が生えてくる。雨天時も含め毎日草刈りをして、校舎1周を約1ヶ月かけて、草が伸びないようにしてくれている。また、子ども達がけがをしないようにと、細かな修繕も丁寧に行ってください、大変ありがたい。冬場の雪かきもありがたい。
- ・町SCは、児童・保護者に対するカウンセリングのみならず、教職員へのコンサルテーションにおいても適切な支援方針を示してくれるため、来校への期待度が非常に高い。

9 学校環境についての課題

- ・環境整備については毎年、適切な予算編成をしていただき感謝。樹木や遊具の点検等、安全にも配慮いただき感謝。
- ・清流苑へのプール学習移行に伴い、プール施設の後処理が長期的な課題。
- ・PC室の雨漏り対策。(来年度、本格的な工事の予定)
- ・校地が広く、草刈りが間に合わない。用務員さんが毎日草刈りをして、1周するのに約1ヶ月かかる。PTA作業やボランティアさんという考えもあるが、町の施設として、3校まとめて、町から助けが来ないだろうか。(年に数回程度)
- ・草捨て場がいっぱいになっている。新しい穴を掘ったり、今の草を搬出できないだろうか。PTA作業では重機がないので、難しい。(今年度やろうとしたが、手作業だけでは無理だった)
- ・タブレット等のネット環境だが、不安定だったり、遅かったりする。安定した高速化を。
- ・災害時(大雨や震災等)の引き渡しをスムーズに行うために、敷地内を車で一方通行で走れるようにしたい。プール横から校庭に進入し、体育館前を通過して南側に出られるように、体育館前(校庭)を舗装できないだろうか。(雨天時は泥沼化し、スタックする可能性がある。)

10 教育行政や教育委員会への要望

- ・【理科専科の配置】国の高学年教科担任制推進の方針に沿い、町費での理科専科教員の配置を将来的にご検討いただきたい。子ども達の学力向上のための専科という考えが一番であるが、小規模の学校は、教員の配置が少ないため、一人あたりの校務分掌が多く、また、年休や出張が重なると、授業を担当する職員がいなく、教頭や校長が授業をしている状況である。職員が気兼ねなく研修や出張、年休をとれるように働き方改革としてもお願いしたい。

子育てしやすい町づくりとして、さまざまなものを無償化すると、経済的に困窮している外部の方が転入しやすくなり、町の財政としても一層苦しくなる。町としてお金をかけるなら教育にかけ、教育の質を向上することで、教育に関心のあるご家庭が他地域から転入しってくる可能性が増える。小学校の在り方を考える一つの材料だと思います。

- ・【給食費の公費化】大変ありがたい。
- ・【会合の多さ】

2月 1日(木) 教育懇談会	19:00～	中央公民館
2月15日(木) 社会教育委員会	19:00～	中央公民館
2月16日(金) 町子ども会育成会	18:30～	町役場
2月17日(土) 福祉を考える集会	12:30～	中央公民館
2月24日(土) 区会・自治会長合同会議	18:00～	上片桐改善センター
2月25日(日) 松川町公民館研究集会	14:00～	中央公民館

2月だけで、町・地区関係の時間外の会合がこれだけある。(この他にPTAや教育会での夜や休日の会合もある。)年間通してもかなりの数の会合で招集されている。地

域との連携とはいうが、本当に校長が参加する必要（来賓という名目での参加依頼等）があるのか、検討いただきたい。

- ・【コミュニティ・スクール】地域が学校へ協力する。学校が地域に協力する。このようなイメージが強いが、本来は「地域をよくするために、地域が地域の子どもをよくする。結果として、学校を支援する。」のが大切だと思います。先生方は、学校の子どもを育て教育することが本務。「先生方が地域のために…」というのは、本来のコミュニティ・スクールではなく、働き方改革とも逆行しています。教育長先生が部活動の地域移行会合で、「松川中の先生が部活指導をするなら、それはその先生が住んでいる地域の部活指導を」とおっしゃられた通りだと思います。コミュニティ・スクールとか、地域連携という認識を、今一度確認し合った方がいいと思います。でないと、地域のところへ学校が出ないだけで、「学校は地域に協力しない」「学校は冷たい」と言われてしまいます。

11 地域との連携(松川学)について

地域を学び、地域で学び、地域を知ることは、子どもたちの学びにとって、とても重要だと思います。たくさんの学びのプログラムを作っていただきありがとうございます。できるだけ教科の時数に組み込みながら、総合も使って、多様な学びにつなげたいと思います。

保小連携についても、北小・上片桐保育園は一校一園の関係なので、交流がしやすくありがたい。

一方で、「新しく来た職員にとってはプログラムがあることがありがたいが、総合などでやりたいことに時間を使えないという弊害もある」という声がある。総合的な学習の時間は、担任と子どもで問題を見出して、問題解決をする学び方が大切なので、この意見が出てくることはとても良いと思われま。

12 世界や他地域とのつながりについて

○中央小との同学年交流：中学に向けて、顔見知りになっていくことは、小さな本校にとってはありがたい。保護者にも「交流を進めてほしい」という願いがある。

○蓮田市との交流：小規模校の北小の場合、外に向かって発信する機会はありがたい。また、こういう場面でも中央小との交流を積み重ねることができる。ただし、5年時のリモートは全員参加できるが、6年時の実際の交流は一部の児童になってしまうことは残念である。

○中国との交流は、北小では今年度は行われなかった。姉妹都市のような継続的な交流ならよいが、「どこの学校かわからないところが日本へ来たから松川によってみたい…」では、困る。今年度、そういう話があって、校内で準備したにも関わらず、「松川に寄る時間はない。早く京都に行きたい」ということで断りの連絡があった。「外国の文化に触れる」ことは良いことだが、中国の子ども達が来ての短い時間での交流だと、中国の子どもたちに日本文化を紹介する活動になってしまい、松川の子にとってのメリットが少ない。

※どんな活動や交流にも意味を見出すことはできるが、授業時数を減らす関係で、外部からの依頼をすべて受けるのは難しい時かと思います。文科省は総時数1086という時間が出ています。北小は来年度の予定が1096。まだオーバーしている状況です。

3 松川中学校

1 こどもの実態

- ・全校集会の入退場や整列など整然とできる。
- ・時間を意識した行動や気持ちのよい挨拶が出来る生徒が多い。
- ・集団生活への困難さや人間関係でのトラブルを抱える生徒が増えてきている。
- ・清掃への取り組みが課題

2 令和5年度学校運営の重点について（以下の項目以外）

(1) 重点（取り組んできたこと）

- ・松中スタンダードを授業の中に位置付け、協働の学びを充実させる。
- ・ICT 機器の有効活用を図る。（個別対応と全体共有の視点での活用）
- ・地域との連携を推進する。（総合 ニコボラ）

(2) 反省と課題

- ・ICT 機器の有効活用と松中スタンダードのベストミックスを研究していきたい。
- ・総合的な学習を中心に地域との連携を図ってきているが、コーディネーターに頼るところが大きかった。もう少し先を見通して学年として主体的に関わってきたい。

3 学力向上について

(1) 学校としてつきたい力

研究テーマ 「自らの考えに自信を持ち、発信できる生徒の育成」

- ・松中スタンダードの充実

○学習内容の観点から

国語：「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の内容は県および全国平均をやや上回っている。「読むこと」の内容がやや下回っている。

数学：記述式問題の正答率は平均なみであるが、文字式の計算等、基本的な知識・技能の習得が不十分である。

英語：「書くこと」「読むこと」の内容がやや低い。記述式問題への正答率がやや高い。

(2) 学力向上の取り組み状況（授業改善の状況）

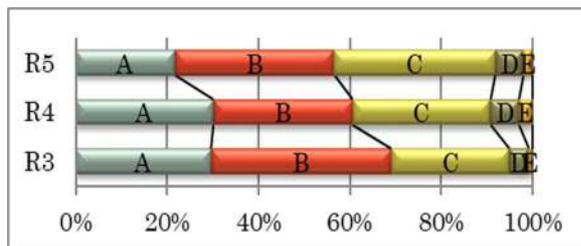
- ・ICT を活用した授業
ICT 支援員の川手先生の指導・支援のもと、授業への活用が広がってきている。
- ・教育課程研究協議会チーム（技術・家庭）と課題別研究チームの2本立てで研究を進め、互いの授業参観を通して授業改善に生かしてきている。

〈評価項目123〉生徒 の評価から見る学校運営の成果 ～3年間の経年変化より～

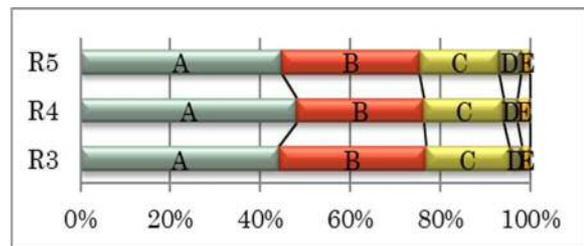
< A : そう思う B : おおむねそう思う C : ふつう D : あまり思わない E : 思わない >

○わかりやすく、熱心に取り組める授業が行われている

○学校での授業や生活は楽しく、充実している



現在、授業は ICT 機器の活用と生徒同士の対話を通して、思考、判断し、表現する授業をめざしている。基本的なことは最初に教えてほしいという生徒の声もあり、全体指導も大切にしながら、「分かった」と実感できる授業をめざしていきたい。



楽しいと感じている生徒（A と B の合計）の割合に大きな変化はないが、楽しいと思わない生徒の割合（D と E）が増えてきている。授業においてより丁寧な個別指導や係活動での達成感など感じられるようにしていきたい。

4 不登校の現状と学校としての対策

(1) 不登校の実情【別紙資料1-2参照】

(2) 学校としての対策

①不登校支援体制の整備

- ・校内中間教室による支援（県費加配教員 松木 T）
- ・生徒指導専門員による支援（町費教員 溝上 T）
- ・校内生徒指導委員会での情報共有
- ・早期に不登校支援 CO や教頭に相談する体制の整備

5 GIGA スクール構想の実現に向けた取り組みについて

(1) 整備状況と児童生徒の活用状況

○機器整備の状況

・タブレット

生徒1人1台：337台 職員：41台（新25台 旧16台） 予備：17台 計395台
日幸電気から借りていた予備3台を返却。

・アクセスポイント 27台

・電子黒板 14台 本年度購入9台（計22台 内1台は旧タイプ：第2会議室）

普通教室11台 特別支援学級（8A～8C各1台）計3台 体育館1台 第1理科室1台
第2理科室1台 第3理科室1台 被服室1台 音楽室1台 第2会議室1台 木工室1台
美術室1台

・職員の新しいタブレットはスペックが高く、Meetをしながらプレゼンをしたり、電子黒板から音を出したりしたときに音が途切れなくなった。しかし、ハブにキャッシュがたまると電子黒板使用時に音が途切れるようになることがあり、ハブのリセットが必要となる。職員が使っていたタブレットは、予備として設定中。

○生徒の活用状況

・学校では、様々な場面で活用している。学び合い学習での使用が課題。

・家庭でのタブレット使用日数（1月11日～28日） 全校平均7.1日（6月：7.7日）

・週末は、金土日の3日間のうち1日だけ使用する生徒が多いことには変わりがない。

・タブレットを使った家庭学習の課題を出せば取り組む生徒が増えてきている。（英語パフォーマンステストでは、「提出すれば5点を加点」としたら提出率が上がった。）

	課題		自由学習回数
	実行数/出題教材総数	実施率	
6月	7/58	12.1%	51
7月	1/20	5%	11
8月	11/42	26.2%	23
9月	9/9	100%	5
10月	3/14	21.5%	219
11月	9/23	39.2%	45
12月	35/39	89.8%	2
1月	未実施		42

・学校では、自分の考えをスプレッドシートやスライド等に入力するといった学習で使われていることが多い。この活動に、ほとんどの生徒が真面目に取り組んでいる。

・左の表は、ある生徒のeライブラリへの取り組みの結果である。出題教材総数が、先生方から出された課題数。実行数は、その課題に取り組んだ数である。取り組みにはばらつきがあるが、9月と12月の実施率は高い。10月は出された課題にではなく、自由学習に多く取り組んでいることが分かる。

（2）次年度以降の課題

○職員

・各教科でどのようにタブレットを使うかを話し合い、一覧表を作成した。作成した一覧表をもとに意識して授業場面を考えながらタブレット使用を工夫する職員がいる一方で、説明のために電子黒板やディスプレイを使うだけの授業が多くなっている職員もいる。授業内容の多さも関係しており、場面毎の使い分けがうまくできるよう教科内で考えていく必要がある。

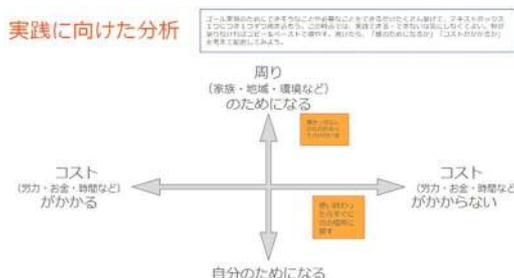
・Google スライドを使って学習問題の設定からまとめまで進める1時間の授業を考えて準備するには、多くの時間を要する。一度スライドを作ってしまうと次年度からは楽になるが、最初の時間が大変である。毎時間でも、学習内容によっても、そのような授業を仕組んでみることも必要なことであると考えるが、なかなか難しい。

理科	<ul style="list-style-type: none"> ・実験・観察の結果の共有のためにスプレッドシート等を使用し、結果のポイントを確実に押さえると共に考察の時間を確保 ・スプレッドシート等を利用した学習カードでの自己評価 ・Webページ検索による情報収集、整理・分析、まとめと発表 ・様々な科学的現象を、絵やモデル図を作成する表現活動を通して、見えない変化を視覚化して思考し、目の前で起きている現象を科学的に推論できるようにして言語活動の充実を図る
----	--

・3校研修で東原先生から

教えていただいた「スプレッドシートを使つての協働学習」を、研究グループの8名の職員がそれぞれ実践した。クラス全員の考えを参考に個々の考えを深める場面で有効活用できそうである。コロナが5類に引き下げとなり、協働学習でグループになって話し合う姿が増えてきている。

- ・教科内の情報交換がなかなか行われない教科が多い。自分の実践を教科内で共有する機会を増やす必要がある。



(左：これからのよりよい暮らしを考えるためのスライド 右：班内の話し合い)

○生徒

- ・1年理科でeライブラリやeboardの課題を出したときには、担任の先生に何度も声をかけてもらい26人のクラスで22~24人は毎回出すようになった。声がけをしないと提出率は下がる。これは、タブレット使用だけでなく、全ての提出物に関する課題である。
- ・本年度の、生徒用タブレットの破損・故障(2月5日現在)
 - 「本体角のゴムがとれた、浮いている：7」「カメラの外レンズのキズ：6」
 - 「キーボードの破損：12」「ディスプレイのガラス：11」「音が出ない：1」
 - 「Wifiエラー、マザーボード取り替え：2」「学校で直せる程度のシステム等の不具合：多数」
 落としての破損が多い。「気がついたら壊れていた」というものもある。
- ・生徒用タブレットの破損・故障があっても、自分から職員室に持ってくる生徒は少ない。1月から、複数回の破損があった場合は1割負担だということを生徒に伝え、アンケートをとったら、たくさんの破損・故障の報告があった。破損・故障があるタブレットは、職員室に持ってくるように伝えても、多くの場合、呼び出されないと持ってこないのが現状である。

6 特別支援教育の現状と課題

(1) 児童生徒の実態

- ・特性のある生徒が多く、家庭連絡を含め担任一人で対応することに困難さを感じている。

(2) 課題

- ・自情障学級の現2年生学級は9名在籍で規準を超えているため、来年度は複数学年による学級編制を考えている。生徒が混乱しないように一日の動きを確認するなど丁寧に対応していきたい。
- ・特に3年生については、卒業後の進路について早い段階から相談していく。

7 教職員の働き方改革の現状と課題

平日時間外在校等時間(単位：時間 小数点以下切り捨て)									
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
県平均 R5	4.9	4.6	4.6	3.5	1.7	4.1	4.0	3.7	3.2
松川中 R4	4.2	4.6	5.0	5.1	2.1	5.1	5.1	4.9	4.9
松川中 R5	5.6	5.1	5.0	3.9	1.8	4.5	4.6	4.2	3.4

※年度当初や部活動の大会等の時期の時間が増える傾向にある。計画的に仕事を進めるようにし、教員業務支援員に授業等のプリント印刷や配付等もお願いしている。

8 町費職員の配置についての活用状況と課題

- ・7名の部活指導員：専門的な指導の充実や職員の負担軽減になっている。文化部への配置もお願いしたい。
- ・午後、不登校支援教員を配置していただき、切れ目なく生徒に対応できた。

・ICT 支援員が授業づくりに積極的に関わってくれていて大変ありがたい。

9 学校環境についての課題

- ・北校舎の水道が冬季も使用できるように改良工事を行っていただき大変ありがたかった。
- ・電子黒板が全教室に配備され、今後有効活用していきたい。
- ・校庭のフェンス補修 ・体育館トイレのつまり対応工事 ・体育館暗幕補修

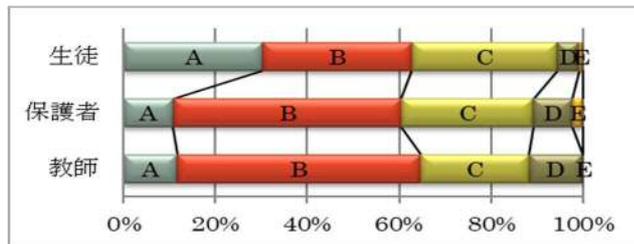
10 教育行政や教育委員会への要望

- ・人員面や予算面等、いろいろな面でご支援いただき大変ありがたい。
- ・個別支援を必要とする生徒（1体1対応が必要）が増加してきているため、支援員及び不登校傾向対応職員の配置及び増員をお願いしたい。

11 地域との連携(松川学)について

学校教育活動の充実のために地域との連携

＜A：そう思う B：おおむねそう思う C：ふつう D：あまり思わない E：思わない＞



コロナ感染レベルが5類となり、地域の方々の協力により職場体験が実施出来た。また、学年職員と連絡を取り合いながら地域コーディネーターが中心となり、「てらこや事業」や「ニコボラ」活動を社会福祉協議会と連携して活動してきた。「しごと☆未来フェア」(キャリア教育)も、11月22日に予定通り実施し「自分にあっ

た仕事をしっかり探して人生の『道』を探していきたい。」という感想が聞かれました。「ニコボラ」活動は地域でも非常に喜ばれ、頑張っている中学生に温かい励ましの言葉をいただいている。今後もよりよいあり方を検討し、連携していきたい。

12 世界や他地域とのつながりについて

- ・深圳明德実験学校との交流：英語授業・給食で全学年交流 積極的に関わろうとする姿が見られた。
- ・コスタリカとの交流：ホストタウン相手国のコスタリカ共和国に手紙を送る。3年生90名分
- ・能登半島自身への義援金活動 生徒会の奉仕委員会を中心に活動 111,603円

13 その他

IV 令和6年度の方針と課題

一 令和6年度 松川町教育委員会重点【別紙資料4】

二 教育委員会の課題

1 学校関係

- (1) 教員の指導力向上
- (2) 地域人材の活用
- (3) 教員の負担軽減
- (4) 町費職員の異動
- (5) 学校施設の老朽化
 - ・中央小トイレの改修 ・バリアフリー化 等
- (6) 不登校児童生徒の増加
- (7) 特別な支援を要する児童生徒の増加
- (8) 児童館利用児童の増加と職員の不足
- (9) 児童館施設の老朽化と施設の不足
- (10) 切れ目のない支援体制の未整備
- (11) 貧困家庭・ネグレクト家庭等の増加
- (12) 子どもを取り巻く問題(SNS・遊び等)

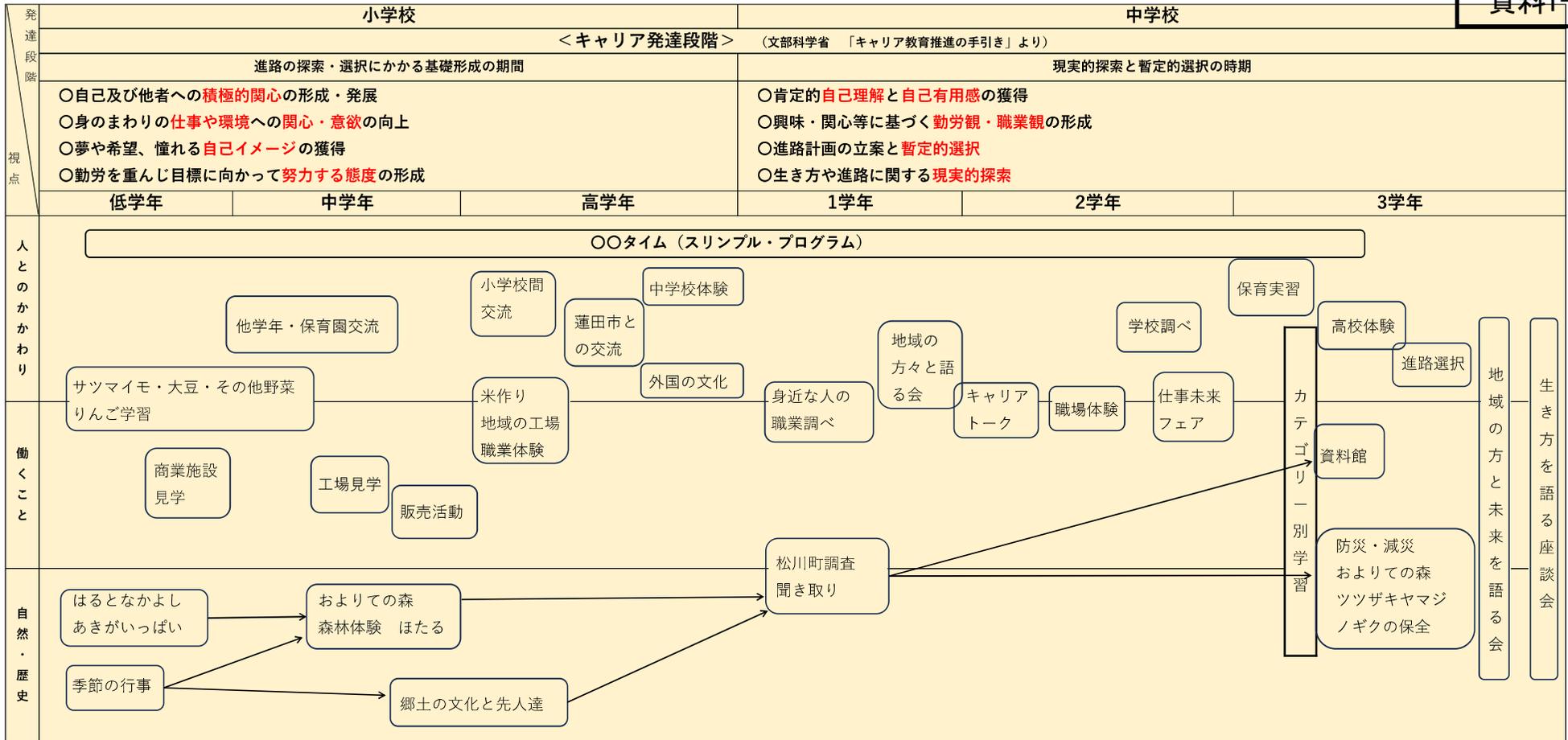
- (13) 学園化構想の実現の難しさ
- (14) 保育園小中学校の連携の難しさ
- (15) 児童生徒の少子化

【別紙資料3 教育懇談会記録】

2 保育園関係

- (1) 保育士不足・若年層の増加
- (2) 未満児の増加
- (3) 保育施設の老朽化
 - ・大島・双葉・福与保育園・おひさま
- (4) 親の養育力の低下 等

キャリア教育・学習系統性（生活科・総合的な学習の時間）



提案及び来年度に向けての方向

- スリンプル・プログラム（○○タイム）の導入、推進
- キャリア教育を計画的に推進するためには、各学校段階でどのような学習が行われているのかを知る必要があるので、年度当初各校の取り組みを確認しておく。
- 地域の特性を生かして、農業・自然環境・文化歴史の分野を中心に具体的な連携ができるのではないか。
※自然環境分野では、およりの森の活動やツツザキヤマジノギクの保全活動において連携できるのではないか。
- 保小中、異学年、地域人材、他機関等、多様な連携を引き続き推進していく。（公民館活動、ニコボラ）

R5 松川町 生活科・総合的な学習の時間の取り組み

キャリア教育委員会

学年	分野	農業		工業		商業		観光業・林業		自然環境		交通		福祉		防災		歴史		国際交流		その他			
		活動	地域人材 (団体名・個人)	活動	地域人材	活動	地域人材	活動	地域人材	活動	地域人材	活動	地域人材	活動	地域人材	活動	地域人材	活動	地域人材	活動	地域人材	活動	地域人材		
小学校	1年	中央	さつまいもを育てよう(焼き芋をしよう)							はるとなかよしあきがいっぱい									季節の行事(七夕・部分)			あさがお			
		北	サツマイモを育てよう							はるとなかよしあきがいっぱい													あさがお		
	2年	中央	大豆の種植え体験	有機給食届け隊			キラヤ・郵便局見学	キラヤ大島店大島郵便局			田んぼの生き物調査	有機給食届け隊													
		北	野菜の種蒔き・苗植えと収穫をしよう	豆腐作り講師の先生																			季節の行事 うさぎの飼育 お蜜様		
	3年	中央	りんご学習	子白農園JAみなみ信州 小林製菓							およりの森	小林さん													
		北	りんご学習	山崎先生 林さん	工場見学	天恵製菓					およりの森	小林さん								昔の道具	中央公民館		農家の仕事と工夫を知る	ふるさと松川・学びの旅プログラム	
	4年	中央												運いすバスケットボール体験 野菜を育てて売ってそのお金を寄付しよう。	パラウェア長野				郷土の伝統文化と先人たち	ふるさと松川学びのプログラム			3年生との交流 10歳記念の会 保育園交流	名子中央保育園	
		北									ホテル学習 およりの森 森林体験	山崎先生 小林昭広さん							郷土の伝統文化と先人たち	ふるさと松川学びのプログラム			保育園交流(上片桐保育園年中さん)		
	5年	中央	米作り体験 りんご農家の仕事	菅沼さん 奥村農園	地域の工場について知ろう	コシバ精密																		愛媛県の漁協と交流	愛媛県庁・宇和島漁協
		北	米作り体験	山崎先生 森下さん 矢澤さん JARライスセンターの方々																					
	6年	中央	蓮田市との交流 農園見学	奥村農園			蓮田市との交流	さんさんファーム																1年生との交流 北小学校との交流 中学校一日体験	
		北	蓮田市との交流 私達にできること	奥村農園 さんさんファーム			蓮田市との交流 職業体験活動	まつかわ森の学び舎 キッズニア																様々な国の文化に触れる	JICA 中央小との交流 中学校一日体験
中学校	1年	調査、聞き取り		調査、聞き取り		調査、聞き取り		調査、聞き取り		調査、聞き取り						調査、聞き取り		調査、聞き取り							
	2年	「職場体験」	竹村工業	「キャリアアタック」 「職場体験」	竹村工業 コシバ精密 エプラス	「新井商店街で宝物探し」 商店街の方にお店の宝物についてインタビュー	新井商店街						「キャリアアタック」 「職場体験」	社協 ひまわり荘 あすなろ						「職場体験」	ミンガン国際学院				
	3年	カテゴリ別学習 中学生と語る会	宮下さん			カテゴリ別学習 中学生と語る会	街づくり研究会 間瀬さん	カテゴリ別学習 中学生と語る会	清流苑 野さん 星	カテゴリ別学習 中学生と語る会	ツツザキヤマジノギク保全会 新井さん					カテゴリ別学習 中学生と語る会		カテゴリ別学習 中学生と語る会	松川町資料館				進路学習 進路講話		
地域	ニコボラ	農作業の手伝い				ハロウィンフェスタ				ツツザキヤマジノギクを守る会 チューリップ植え ゴミ拾い				ひまわり荘 松川荘 児童館 子ども食堂			遺跡発掘			コスタリカとの交流			町図書関係		

R5 第2回教育懇談会 まとめ

資料3

R6.2.1

教育懇談会のあり方をもっと考える
→この会にもっと人が出てくると思った

子どものことを考える＝地域の未来を考えること

授業カリキュラムが、生きる力にどうつながるのか

もっと地域の人で教育を考える

地域の方、みんなで教育のあり方考える機会が必要ではないか

- ・不登校 20万→30万人
- ・放課後子ども教室
小さな学校→一人一人を見れる
- ・根本的に変わらないガンジがらめ
- ・保→小の連携 ×いきなり勉強

学校・地域の裁量をもっと自由に

中川村 夢見る学校プロジェクト

このような会のチラシを地域や保育園にも配る

山などの素材、自然を生かす
近くにあるはずなのにあまり行かない…かな

国際化 JICAの方との交流
国際交流

小・中・高 ボランティア部
地域の若い人たちがつながる機会を

ガンバレ！北小

北小 縦割りの学級
総合的な学習の時間だけでも…

地域の方のボランティアの高齢化が進む…
若い世代の関わり
→働いていて忙しい

昔 30年前 2クラス×23人

家族で移住
成長して町を出ても戻ってくる。平均年齢高い。

地域の方との関りがやりやすい

良い点もあれば、デメリットになることもある
それぞれの特色を生かした学校づくりがされている

それぞれに通う子どもたちが、伸び伸び、健やかな育ちと学びを可能にする環境条件を醸し出すこと

相互交流

松川町の成り立ち
生田・大島・上片桐にそれぞれ一校として
小学校3校・中学校1校体制はできないのか？

自由通学区制は良いと思いました。
デジタルに強くなる教育
地域の特色を生かせる教育
子どもだけではなく、先生も学校間交流

人数の多いことの良さ
少人数の良さ どちらも素敵だと思った

子どもの数が減った＝統合ではなく、特色のある校風を見出すことがとても良いと思う
ただ統合するだけじゃ もったいない！

相互交流をして、よい面を取り入れる
先生や子どもがお互いに親しくなる

地域の学校
表裏一体
課題山積
多様な選択肢
どんな学校をめざすか
段階 新しい風

それぞれに大切にしたい特色がある
あせらず、じっくり、着実に進める
(子どもを持つ親の思いを大切に)

小規模校 即統合ではなく、
地域の人たちな様々な意見を聞き、検討する

教員の働き方改革
→教科担任制

学区の自由選択
学び方の選択

参観日いる？
いつでも見に来てよ 保護者・地域住民

決まり事から
の解放

自由にお茶
コミュニティスペース

ワクワク解放

みんなの学校
先生が生徒になっても良い

好き・得意を生かす
学校の中に子どもたちがワクワクすること

子ども自身にも意見を聞く

先生・生徒の逃げ場

保小中一貫校
自由度大、探究型

学区自由 デメリットはないんじゃない？
1年毎でもOK 中央小⇄北小

特色ある学び
運動に特化した小学校
松川に特化した農業自営
小学校はできるが、中学校
は受験があり無理か
部活の地域移行→受け皿

中央小
同じ仲間で居られる
社会性
選択肢多い
クラス別になる良さ

保小中一貫

北小
9年間同じ なんとか乗り越える方法
他学年との交流

時代に合わせた教育は遅
い
AI 人間に必要なもの
何が正しくて判断ができ
る人間

給食センター
冷めない自校の方がいいと思うが、効率も…

福与→小
大きいところで心配
でもそこに行かせたい思
い

未来を見据えた教育

自由選択はいいかも
福与保育園 遠くからでも行きたい
山保育に特化 特徴があれば移住も
親のねがい 魅力 評判 でもお金が…

子どもは統合 あまり考えない
友達ができるまで どう接していいか…
でもすぐ慣れてしまう
小さな学校 クラス替えない 中1 東小の子た
ち 関係すであつた 代表的リーダー

子どもたちが安心して楽
しいこと、嫌なこと、い
ろいろ学べる場所

大小は別として、地域とのつながりが強い
時間をかけて多くの意見を聴く 特に小さい子を持つ親から

選択できる良さ 多様性 松川町の未来 財源

複式になるかもしれない
時代の親として 一人ひ
とりが考える

少子化に向けての対策と
して、多様な考え方、学
校と地域の連携が必要

表裏一体 良い悪いは変わる
そうは言っても 財源・お金 大丈夫？ 「学校」の形が変わってくるの
では？
先延ばしにはできない課題

地域に大切にされている学校、それぞれ特色があり良かった。
保護者や地域のねがいを大切にするとあつたが、とても難しいと思った。今あるものを変える時、対話でやっていくことはできるのか…
松川はやろうとしていることがすばらしい！！

今日のような会をもっとたくさんいろんな場面で増やして、町民みんな考えていく必要があると思います。

小規模校も大規模校でも、そこに行って過ごした経験を子どもにどう浸透させていくか、特色も重要性がぼやけてイメージしづらい。

わからん

子どもたちはどう考えているか
子どもにとって、という視点
松川町が学園そのものという考え方
町のあり方(特色)とは切り離せない

小規模は特色あり育つようだが
中学、高校等の大規模校に行った時に
対応できるのか？
社会に出て生き残っていくためには、
大多数の中で切磋琢磨していく必要があるのではないか

特色ある教育(学校)
=どんな子どもに育てたいのかにつながる
学園化は難しい
保小中一貫教育
町ぐるみで子どもを育てる
町全体が自分事として考えること
施設ありきにしたくないが、合理的、財政的
子どもたちを中心に考える

義務教育学校による学びの統合→施設の集約化
(教育・福祉・介護)
+
地域の特性を生かした住民全体による教育の推進

北小のリーダーとフォロアーの取組
北小の存続を真剣に考える

それぞれの良さを生かす
学園化構想を進める！
一人ひとりの
子どもの幸せを願って

通学区の自由化おもしろい
保育園には「やまほいく」あるように学校にも特色を
「財政負担」とすぐ言う
子どもの成長が大切ならお金をかけるべきでは？
第3子にお金をばらまくのなら学校にも…

北小の存続について
通学区の自由化
特色ある学校教育
少子化をどう食い止めていくか

統合について
東小がなくなって、その地域は今どうか？
実情がよく分かった。
保護者世代をもっと話し合いに参加してもらう必要があるのでは？
20年後には複式学級… 今の子どもたちが保護者になるころである

“松川学園”の実現に向けた具体化を！
子どもの幸せ、家族の喜び、地域の発展！
良さの共有・特色の共有・楽しさの共有

学校のあり方を多様化できないか？

学習する場を外にもっと作る

社会に出て通用する子を育てる

その為にできること

老若男女とのふれあい小規模グループで個性を出せる仕組み

大きな家族みたいな場
昔の日本の良いところを取り入れる

少子化は学校では解決できない問題

地区の特徴を出し、産業を活発にすることが大切

規模の異なる小学校にはそれぞれの良さがある

そのどこを高め、深めていくかを、地域の願いを大切に考えていきたい
それぞれの良さを生かす学校を作り、自由選択ができると、自分の将来を意識しながら学んでいけるのかもしれない

大規模・小規模の良さを生かす 少子化対策を行政と

少子化より増やす方が先
行政とともに（施策建物）

北小の良さを残す

児童増のために通学区の見直し

北小の方が近い子もいる

中央小の教室が足りない問題も解決できるのでは
通学区の自由化

多人数の中が苦手な子の受け入れ

周りの刺激に過敏に反応してしまう子など

学校のあり方を多様化できないか？

学習する場を外にもっと作る

社会に出ても通用する子を育てる

令和6年度 松川町教育委員会 重点指針(案) ～松川町を誇りに～

子ども達を取り巻く社会背景等

多様性の時代
不確実性の時代
Society5.0
続くコロナ禍

松川町の

子ども達

・子どもの数の減少
・不登校児童生徒の増加

・人とかわる力がやや低い
・自己肯定感がやや低い
・家族と過ごす時間・SNSやテレビの時間が多く、友達と遊ぶ時間が少ない
・松川町を意外に知らない。けれども、松川町のことを考えている子ども達
・明るく素直な子ども達

【現状と課題】

- 知識技能の偏重
- 新しい価値や時代を想像する資質能力の必要性の高まり
- ・経済格差による学びの機会の格差
- ・学校以外を居場所とする子どもの学びの場の必要性
- ・学校が担う分野や機能の多様化、業務量の増大
- ・社会性、コミュニケーション能力の低下
- ・人とのつながりの希薄化
- ・人間関係の固定化
- ・体験的な学びの減少

学校・教職員の現状

【学校】同一教室、同一内容、同一進度による学びの弊害

【教職員】教職員の負担過多、学校現場の疲弊、中堅教職員の減少

めざす姿

① **ま**つかわ大好きな子 ・世界や地域と
② **つ**ながる子 ・一人ひとりが
③ **か**がやく子 ・
④ **わ**たしを大切にできる子

松川町を愛する子どもを育む

人とつながる多様な学びの実現

子どもを主人公に

主体的な学びの実現

子どものための重点指針

◎学校づくりはまちづくり

- 自己実現の可能性を探る**：「しごと☆未来フェア」：地域コーディネーターを配置して、地元の企業や事業所で働く方々から、仕事のやりがいを学び、自分の将来を見つめる機会を中学生が主体となって進めます。
- 地域から学ぶ機会を創出**：「松川学」＝学びの旅
 - 松川を知り、松川を発信する「松川学」の学習を通して、松川の「ひと・もの・こと」との出会いを体験的に学びます。
 - 小学校1年生から中学3年生までの一貫性のあるキャリア教育を推進していきます。
 - 地域との協働活動による「ニコボラ」の実施を通して、自己有用感を高めるとともに、地域とのつながりを深めます
 - 町内での教職員の研修機会を設け、松川を知り、松川を教材にした授業づくりに生かします。
- 町ぐるみで子どもを育む仕組みを整備**
「松川町学園化構想」の実現に向けて「松川町保育園・小・中学校運営協議会」を通して町ぐるみで子どもを育む仕組みを構築するとともに、シームレスな学びの実現に向けて保小中連携推進委員会を通して取り組みます。

◎一人も見捨てることなく子ども達の多様な居場所を確保します

- 不登校児童生徒の学校以外の多様な学びの場を整備**
NPO 法人との連携・協働や教育相談室、ALL 南信州の不登校関係者とも連携して多様な学びの場を確保していきます。
- 特別支援教育の一層の充実を図ります**
 - 町費特別支援教育コーディネーターの配置**
保育園と小学校との連携やこども家庭センターとの連携を深め、早い段階での適切な支援を図るとともに適切な学びの場を提供します。
 - 児童生徒支援ネットワークの構築**：支援の必要な児童生徒に切れ目のない支援を関係機関と連携して構築していきます。
- 英語教育の一層の充実や世界や松川町内以外との交流を通して自分の世界を拡げ、グローバルな人材を育成していきます**
 - 英語教育推進プランの作成と推進**
保育園年長児・小学校低学年から英語に慣れ親しむことができるようALTを複数雇用して、楽しく学べる機会を創出します。
 - 世界とつながる**
中国やコスタリカとの交流を継続できるよう、異文化を学び、視野を広げていきます。
 - 蓮田市とつながる**
蓮田市の小学生との交流事業を通してお互いの良さを学ぶとともに、自分たちを取り巻く問題を話し合い、リーダーを育成します。

◎子ども達の声を活かし、自立心を育みます

- 子ども達と語り合う機会の設定**：松川町の未来や課題について中学生と語り合う機会を設けます。また、部活動の地域移行に向けて小学生や中学生の声を取り入れていきます。
- 子ども達の健やかな成長のための相談・支援体制の充実を図り、かかわる力を伸ばします**
 - 子ども達の安定的な発達のための支援体制の構築**
町費スクールカウンセラーを配置して相談体制を整備します。小6については全員個別面談を継続実施します。
 - 子ども達が健やかに成長するために必要な「かかわる力」の育成**
町内小中学校でスリンプル（スリム&シンプル）プログラムを導入して、人とかかわる力を育みます。

◎教師主導の授業から子ども主体の授業へ転換します

- 一人ひとりに応じた学びの実現**
GIGA スクール構想の下、ICT 支援員による指導や提案を有効に活用して、タブレットを用いた個別最適な学びと学び合いを実現します。
- 子ども達の意欲を喚起する授業の構築**
子ども達の意欲が持てるような授業、体験的な授業を基に、一人ひとりの学びから協働的に学ぶことを大切にした授業づくりを実現します。
- 挑戦する子の育成・基礎学力の伸長を図る**
 - チャレンジスクールや検定対策講座の充実**
 - 夏休み中の学びの場として教科学習のチャレンジスクールと体験的な学びを実現する講座を開講していく。
 - 漢字検定・算数数学検定・英語検定の対策講座を設定して、伸びる力を一層伸ばす取り組みを展開します。
 - 分かる楽しみ「てらこや松中」モデル事業「てらこや中央小」**
中学校では地域の講師による英語・数学の補習授業、中央小では基礎的な学習を中心にタブレットを活用した放課後の学習を展開します。

